

idea

ニュースレター「アイデア」

2021.8

NPO・地域・企業・行政の情報発信により、
「アイデア」と「であい」の機会を創ります。

- 1 | 二言三言 | 岩手県一関児童相談所 所長 山岸公美さん(後編)
- 3 | 団体紹介 | ひこばえ食工房
- 5 | 地域紹介 | 真滝6民区(一関)
- 7 | 企業紹介 | Vege fruハーモニー(花泉)
- 8 | 博識社のフクロウ博士 | 地域運営の落とし穴⑬
- 9 | センターの自由研究 | くらし調査ファイルNo.14「舟のある暮らし」



今月の表紙

「一関市民俗資料館」に展示されている木造の舟。川崎町の方が寄贈したものだとか。北上川や磐井川沿岸の家々では、昭和30年代頃までこうした舟を軒下などに吊り上げておき、水害時に備えていました。堤防の整備や河川改修により、次第に「備え舟」の必要性が薄れ、多くの家で手放してしまった今、そこにあった「暮らし」を見つめてみました(自由研究)。

idea

発行 いちのせき市民活動センター 〒021-0881 一関市大町4-29 なのはなプラザ4F Tel 0191-26-6400 Fax 0191-26-6415
せんまやサテライト 〒029-0803 一関市千厩町千厩字町149 Tel 0191-48-3735 Fax 0191-48-3736

ホームページ: https://www.center-i.org/ メール: center-i@tempo.co.jp

お知らせ

募集

第23回 一関藤沢市民劇場 キャスト・スタッフ募集!

一関藤沢市民劇場実行委員会では、2022年2月27日(日)に開催予定の「第23回 一関藤沢市民劇場」を一緒に作ってくれるキャストとスタッフを募集しています。「演じてみたい」「物を組み立てることや絵を描くことが好き」「音響や照明に興味がある」「趣味や特技を活かしたい」など、初めての方でも大歓迎です。詳しくは下記まで。

募集内容:

〈キャスト〉 小学生以上(定員制限なし)

〈スタッフ〉 音響班・照明班・化粧班・衣装班・美術班 等
各班高校生以上(若干名)

問合せ&申込: 0191-63-5516

(藤沢文化センター内
一関藤沢市民劇場実行委員会事務局)

情報

「ユニバーサルスポーツ」 出前教室

NPO法人グッジョブクラブでは、老若男女、障がいの有無に関わらず楽しめる「ユニバーサルスポーツ」等の出前教室を一関市近郊エリアにて対応しています。ぜひ市民センターやサロンなどの事業としてご活用ください。出前可能な種目は下記の通りです。

出前可能な種目:

ボール遊び、スポーツ玉入れ、レク式体力測定、ポッチャ等ユニバーサルスポーツ、スポーツウエルネス吹矢

料金: 5,000~20,000円

※種目、開催場所などにより変動。詳しくはご相談ください。

問合せ: 090-9747-0929(萩田)

✉hagita2@r6.dion.ne.jp

情報

YouTubeチャンネル 「せんちゃん」

千厩町の千厩地区まちづくり協議会では、動画投稿サイトYouTubeにチャンネルを開設しました。各種事業の様子や季節の風景などを地域内外の人を楽しんでもらおうと動画で発信中。

下記QRコードを読み込むと、当該チャンネルに飛ぶことができます。千厩地区まちづくり協議会のホームページからもアクセス可能です。「チャンネル登録」もよろしくお願いします。

YouTubeチャンネル 「せんちゃん」 →

問合せ: 0191-52-2309
(千厩市民センター内)



募集

「第16回 むかさり行列」 花嫁・花婿募集中!

一関市厳美の地域協働体「厳し美の里協議会」では2021年10月下旬に開催予定の「第16回 むかさり行列」に出演する花嫁・花婿を募集しています。むかさり行列は1955年頃まで一関地方で行われていた花嫁道中を再現したもので、2003年に伝統的な行事の継承と地域活性化を目的に復活。詳しくは下記までお問い合わせください。

募集対象: 一関市内在住の夫婦または婚約しているカップル

衣装代: 自己負担。ただし、協議会から半額の補助(上限20万円)あり。

募集締切: 2021年8月16日(月)

問合せ&申込: 0191-29-2205

(厳美市民センター内)

イベント

「室愉会」プレゼンツ 「むろねドライブインシアター」

室根まちづくり協議会では、室根の若者団体「室愉会」が企画運営を行う「むろねドライブインシアター」を開催します。車に乗ったまま映画鑑賞ができる屋外映画会で、音声は車載ラジオから受信。コロナ禍でも他人との接触を気にすることなく楽しめます。先着25台の事前申込制です。

日時: 2021年8月21日(土)
19時~上映(18時開場)

会場: 一関市役所室根支所 南側駐車場

参加費: 無料

上映作品: 『ボスベビー』(98分)

問合せ&申込: 0191-64-2347
(室根市民センター内)

※「室根まちづくり協議会」のHPからも申込可

イベント

「出張！ ふるいモノ・なつかしいモノ 鑑定アドバイス会」

ご実家や歴史ある店舗等に残る「ふるいモノ」「なつかしいモノ」。代々のものと伝えられながら、その価値が分からず、保存し続けるべきか悩まれている方は少なくないのでは。そこで、古物商として経験豊富な方に見ていただき、その価値や今後の保存に関してアドバイスいただく企画を開催します。詳細はお問合せください。

日時: 2021年8月29日(日)

11時~12時
※「いちのせき市民フェスタ21」内で開催される企画の1つ

会場: 花と泉の公園(花泉町老松字下宮沢159-1)

問合せ: 0191-26-6400
(いちのせき市民活動センター)

まちの写真展

スタッフがまちの1コマを切り取ります。



旧町村別の人口動態等を共有します。

作品名 「駄菓子も売ってる‘もりのみせ’」



花泉町老松字佐野屋敷に6月にオープンした小さくて可愛らしい雑貨屋さん「もりのみせ」。娘夫婦の元にオープンした方が自宅横に構えた店で、様々な手作り雑貨のほか、地域の子どものために駄菓子コーナーも。すでに子どもたちが通い始めているようです。

2021年7月1日付
(2021年6月30日現在
住民基本台帳より)
※外国人登録者含む

一関市全体 前月比

人口	112372	-145
世帯数	46345	-25
出生数	36	-6

	人口	前月比	世帯数	前月比
一関	55483	-39	24407	-3
花泉	12457	-15	4714	-2
川崎	3418	-9	1287	-4
千厩	10240	-27	4110	-7
大東	12535	-14	4949	-3
東山	6214	-11	2302	0
室根	4599	-12	1773	-4
藤沢	7426	-18	2803	-2

155 / 112,372

山岸 公美

岩手県一関児童相談所所長。同児童相談所には令和3年4月現在、職員25人、会計年度任用職員10人、嘱託医（業務委託含む）2人が配置されており、18歳未満の児童に関する養護相談（児童虐待含む）、保健相談、障がい相談、非行相談、育成相談に対応している。



第86回

岩手県一関児童相談所 所長 山岸公美さん ✕ いちのせき市民活動センター センター長 小野寺浩樹

子どものSOSを取りこぼさないために ～児童虐待を未然に防ぐ仕組み【後編】～

児童虐待が全国的に増加する中、児童虐待を未然に防ぐために、一個人として、家庭として、地域として、それぞれにできることを考える2回シリーズの後編。「虐待の連鎖」を防ぐためにも、保護された子どもたちが幸せに育つていける「育ての親」の存在が重要です。「里親」という「選択」を正しく理解し、地域としてサポートしていくことが求められています。

小野寺 一階から子どもの声が聞こえますが、「一時保護^{※1}」の子どもたちでしょうか。

山岸 はい。ここにはお風呂や食堂もあり、職員と一緒に寝泊まりします。当児相は県南7市町が管轄^{※2}なので、管内の家庭から一時的に引き離れた方が良いと判断された子が入所します。

小野寺 親と子どもを引き離すのは、心が痛む判断ですよ。

山岸 たいていは虐待の程度が重く、いつまた殴られるか分からないような子や、親の方が「こんな子いりません」とか、子どもも「学校から家に帰りたくない」というような状態になっているケースです。

小野寺 切り離されることを望むということですか？

山岸 私たちが会える時は、一番状況が悪い時なので、親も子どももSOSを出していること

で、登録者を増やす周知活動にも力を入れています。

小野寺 各地にいれば選択肢が増えますね。ただ、里親に興味はあっても、周囲の目を気にして躊躇する人も多いのでは？

山岸 やはり「登録はするが自分が里親だということは知られないようにしてほしい」という人もいますし、「地域にどう説明したら良いか」と相談される方も多いです。でも逆に「地域に協力をもらわないと安全に養育できないから、今受け入れていこう」ということを周知する」という人もいます。本来はそうあるべきなんですよ。

小野寺 不妊治療について産婦人科医に伺った時もそうでしたが、「不妊治療してます」とか「養子縁組しました」ということを堂々と伝えるような社会になるべきで、リテラシーの向上が必要なんですよね。「子どもが生まれなかったから養子をもった」ということを理解し、支えられる社会にならないと。

山岸 それこそ「子どもは地域の宝」として、社会全体で支え

が多いです。一時保護によりいったん距離を置いてクールダウンし、冷静にいろんな話ができるようになる立ち直りの方向に向いていくことは少なくないです。虐待相談のうち、一時保護後も引き続き家庭から分離するのは1割程度で、9割は在宅での指導です。

小野寺 在宅での指導というのはどのようなことを？

山岸 職員が訪問し、例えば経済的な要因が背景にある時には、関係機関へつないだり、各種機関と連携して虐待リスクを下げていきます。一時保護になった場合でも同様に、子どものケアと同時進行で親御さんのケアをします。親自身の育った環境や成育歴などが子どもに投影されていることが多いので。

小野寺 自分も虐待を受けていたというケースですか？

山岸 連鎖していることが多い

ていくことが大人の責務かなと。

小野寺 未来への投資ですよ。どこかでできてしまった「養子Ⅱ可哀そう」というネガティブなイメージを払拭しないと……。

山岸 極端なことを言えば、その子を愛してくれて、一生懸命育ててくれる人であれば、実の親じやなくても良くて、そういう人と出会って育つていけることが大事。親神話と言いますが、「実の親」「夫婦という単位」が理想という概念がまだまだあるんですよ。

小野寺 生みの親より育ての親。子どもに可哀そうという眼差しが注ぎ込まれること自体が心理的虐待ですよ。

山岸 里親さんも安心して弱音を吐けて、子どももそこで見守られて、親子ともどものびのび育つような地域、地域づくりが理想ですね。

小野寺 「自分が里親になったら」などを考える機会を地域協働体などでもてたら良いですね。

岩手県一関児童相談所
住所 一関市竹山町5-28
電話 0191121-0560

※3 「社会福祉法人ふじの園」が運営する児童保護施設。

※1 児童の一時保護が必要と認められる場合に、身柄の保護を行う。令和2年度の管内における一時保護児童数は94人(延1881日)。
※2 岩手県には盛岡、宮古、一関の3か所に児童相談所があり、一関児童相談所の管轄地域は一関市、大船渡市、陸前高田市、奥州市、金ヶ崎町、平泉町、住田町。

団体紹介

新しくも古い、地区ゆかりの味をきっかけに

ひこばえ食工房

平成22年発足。正式名は「室根12区農産物加工組合(※任意組合)」。現在は室根12区自治会内の10戸13人で構成。「矢越かぶ」を使用した「かぶ蒸かし」などを、「道の駅むろね」等にて販売するほか、各種地域イベントにも参加、協力している。

〒029-1202 一関市室根町矢越字山古沢92-1
TEL: 090-1935-3806(事務局: 小野寺)
写真: 加工場前での集合写真。現在はこのメンバーに若手農家が加わっている。



世代交代で資金確保 親世代の想いを繋いで

オレンジ色に近い鮮やかな黄色が目を引く「矢越かぶ」。明治時代に矢越の種売り商人から広められたと伝えられる固定種です。この「矢越かぶ」をもち米とともに蒸かした「かぶ蒸かし」は、県の「食の匠」制度にて、平成9年に食の匠の「一品料理」として認定されています。

この時、食の匠に認定されたのは「ふるさとの味伝承の会」。今回取材した「ひこばえ食工房」の前身団体です。「かぶ蒸かし」を地区の味として販売するための加工場を持ちたいと考えましたが、補助金を活用しても、約500万円の自己財源が必要でした。

そこで、主軸となる年代の世代交代も兼ねて、平成22年に息子世代を中心に「ひこばえ食工房」を結成。中山間地域等直接支払制度等を活用し、年100万円を3年間積み立てたほか、地元住民から木を無償提供(寄付)してもらい、

ひこばえ食工房

資金源にするなど、自己財源の確保に努めます。晴れて加工場を持つことに成功した同会は、「かぶ蒸かし」を中心に精力的に商品開発も行い、現在では約13種類の商品を抱えるほどに成長。地区の味を後世に伝えながら、地元住民の交流の場や、生きがいづくりの場としても機能しています。

運命的な逆輸入 「幻の矢越かぶ」

「幻の」という冠がつく「矢越かぶ」。矢越地区での生産が途絶えた時代があったことが由縁です。平成元年、「牡蠣の森を慕う会」(現「NPO法人森は海の恋人」)が中心となり、気仙沼湾に続く大川流域の室根町矢越にて「森は海の恋人植樹祭」が開催されました。以降、毎年6月第1日曜日に開催されるこの植樹祭を、開催地としても盛り上げていこうと考えた室根12区自治会では、同運動のシンボルとして、かつて室根に

加。「地域づくりに必要と言われる『ワカモノ・ヨソモノ』が集まっているこのタイミングだからか、やる気が出てくる」と、会のみなさんは笑顔を見せます。地区内外に愛される新商品の完成が今から楽しみです。

- Photo

gallery -

山椒の収穫作業

「朝倉」という品種の山椒が地区内に植えられており、6月中旬に会員が収穫。山椒100%の佃煮は夏の人気商品です。



幻の矢越かぶ

ポタージュやムースなど、甘みを活かした料理も可能な矢越かぶは、収穫後、2週間ほど熟成させることで甘みが増します。



ロングセラー人気商品

看板商品はもちろん「かぶ蒸かし」ですが、室根町産のもち米と大豆を使った「達者もち」も長年の人気商品です。



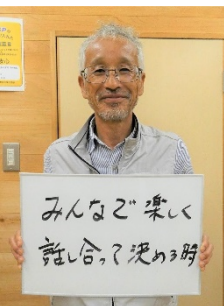
新商品開発懇談会

会員がそれぞれアイディアや試作品を持ち寄り、和気あいあいと新商品を検討中。時にはその場で調理が始まります(笑)



Q. 「やりがい」を感じる瞬間は？

組合長



A. みんなで楽しく話し合って決める時

おやま えいいち
小山栄一さん

今年度より組合長に就任した小山さんは、12区の農家組合長も務めています。普段は和牛繁殖を営んでいます。

会員(衛生管理責任者)



A. 完売につける!!

みうら きくこ
三浦きく子さん

衛生管理責任者であり、道の駅等への出荷管理も担当している三浦さん。季節や天候に応じて出荷内容を調整します。

生きがい・やりがいを提供 できる場を目指して

※1 流れる水を受けて木のテコが動き、先端の杵を上下させてヒエやコメなどをつく装置。

は60以上あったとされる「水車小屋(バツタリ^{※1}含む)」を作ろうという運びに。平成6年に同自治会内に完成させた水車小屋は話題を呼び、植樹祭以外の時にも視察が訪れるようになります。「せっかく地区外から訪れる人がいるのだから、ここならではの特産品を作れないか」そう考えた同自治会。検討を重ねる中で見つけたのが、かつてこの地区で生産されていたとされる「矢越かぶ」の存在でした。どうか復活させられないかと種などを探していたところ、宮城県気仙沼市の大島に同様のかぶがあることが判明! 矢越の種売り商人が大島に伝えたとみられますが、ひこばえ食工房事務局の小野寺寛さんの奥様が大島出身というご縁で、この種を分けてもらうことに成功します。実は地区内でも奇跡的に見つかった種があり、その種と、大島からの種の2種類で栽培を続けるうち、かつての「矢越かぶ」に近いかぶを栽培できるようになったのだとか。現在「矢越かぶ」は、小野寺さんを中心に栽培され、同会商品として加工されるほか、市内のレストランや道の駅へ出荷。さらに近年は東京にも年間200kg程を卸すなど、その味や鮮やかさ、ストーリー性が話題を生み、注

地域紹介

真滝6民区

真滝地域は「狐禅寺地区」「滝沢地区」「真柴地区」に分けられ、真滝6民区は狐禅寺地区。人口は約120人(35世帯)で、真滝地域では最も人口規模が小さい。部会はなく、主に区長、副区長、班長(6班体制)で民区内の事業を行う。



左の写真：秋の一斉清掃後の集合写真(令和2年度)

修験者も籠った!? 歴史深い小規模集落

真滝6民区は狐禅寺地区で最も東側に位置し、北上川を挟んで舞川地区と滝沢地区、平沢地区が隣接しています。特に平沢地区とは、昔からお嫁さんやお婿さんが行き来するほど交流が深く、婚礼事等が少なくなった現在も住民同士につながりは続いています。

また、同民区内にある「普賢沢不動の滝」には、坂上田村麻呂が滝に不動明王を祀ったのが始まりとされている「滝神社」が建立されており、歴史を感じさせます。

ちなみに、同民区は「並木」「藤」「大平(大比羅)」の3つに分かれますが、いずれも通称であり、地名としては存在しません。なぜ地名にない通称で呼ばれるようになったのか、元区長で滝神社講中代表を現在も務める同民区の物知り、木村喜美雄さんは「権力のあつた者の屋敷名か屋号だったのではないか」と推測。

今回は歴史ロマンが漂う同地区

横と縦の関係性に、奥行きを持たせて

真滝6民区

一関

事業所との関係構築は 有事への備え

の活動について伺いました。
※1 同じ狐禅寺地区内に「大平」と書いて「オオダイラ」と読む地名があるのに対し、同民区の「大平」は「オオヒラ(オッシャ)」と読む。昔は「大比羅」と表記したとのこと。

民区内には、(株)イチサイ砕石工場と(株)平野組リサイクルプラントの事業所があり、各事業所から区費を納入してもらうほか、災害等の非常事態時に重機を出してもらうなどの対応をお願いしている同民区。喜美雄さんが区長を務めていた時代、「これからは地域と企業が一緒に地域を発展させていかなければならない」という想いから、この2事業所と提携を結んだことが由縁です。

実際、両事業所は率先して側溝の泥上げ作業を行うなど(現在は放射能の関係で休止中)、民区内の環境整備にも尽力しています。喜美雄さんは当手を振り返り、「提携を結ぶ前は『砕石の4トトラック

と公子さん。人口規模が小さい民区だからこそ、住民が暮らしやすく、笑顔が絶えない民区運営を今後も続けていきます。

地元への愛着を育むために

が通ると道路が壊れる』と、住民の事業者に対しての嫌悪感はすごかった。そのような状況下でも住民への理解を深めるために何度も話し合いを重ね、みんなから賛成をもらうことができた」と話します。

その話を聞いていた現区長の木村清人さんは、「喜美雄さんが繋いでくれたこの関係は、いつ発生するか分からない災害の備えにもなっている」と言い、その様子からは、先輩区長たちの情熱と努力で築き上げてきた実績への敬意と感謝の気持ちとともに、「自分の代では絶やさないぞ」という強い思いが伝わってきました。

毎月第3水曜日に行っている「元氣いきいきサロン」は、区長と保健推進委員が運営主体となって取り組んでいます。毎回15人ほどが参加し、保健師による健康相談、レクリエーション協会の健康体操などを行っています。昨年度は「方言勉強会」を初めて実施。この企画に際し、民区内のお年寄りが当たり前のように話している方言を文字に起こすところからスタートした清人さんは、「普段当たり前のように話している言葉や方言を文字にするのは大変だったが、改めてこの方言がどんな意味なのか楽しく知ることができた。おばあちゃんやおじいちゃんと一緒に暮らしていないと馴染みのない言葉ばかりだが、地域の特徴も表現されるのが方言。今度は若い人たちに方言クイズとして出題したい」と笑顔で話します。

最後に、「こじんまりした民区なので、団結力は強く、近所同士の支え合いもある」と民区自慢を語る清人さん

Q.集落の自慢は何ですか？

区長



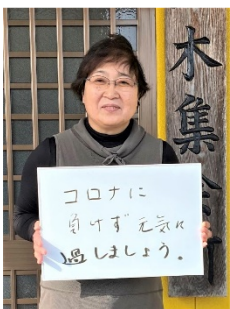
A. 団結 皆様の協力と共に!!

きむら きよと

木村清人さん

2期3年目。今年3月、40年間入団していた消防団を退団。最後は、一関第三分団の分団長を務めるなど、地域に貢献してきました。

民生児童委員



A. コロナに負けず元気に過ごしましょう。

たかはし きみこ

高橋公子さん

真滝5区・6区を担当する民生児童委員(1期2年目)。高齢者宅への見守り活動等を行いながら、民区活動にも積極的に参加しています。

- Photo



累計70人ほどが参加し、2km強の区間を草刈り。住民の主要道路ほか、小学校の送迎バスなども通るため、キレイに整備。

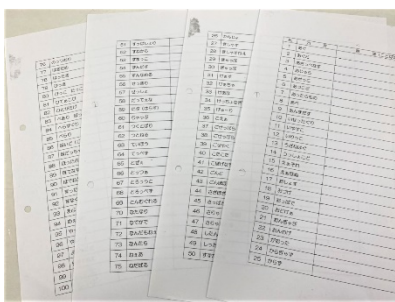
市道の草刈り



戦後に撮影されたと思われる清人さんなどの祖父世代が写る集合写真。バックに写るのは、建て替え前の集会所です。

先輩たちの集合写真

gallery -



お年寄りの聞き取り調査で集めた100の方言。どんな時に、どういう意味で使われるか、みんな楽しく勉強しました。

サロンで方言勉強会



昨年、「岩手の六芒星」が話題となりましたが、その一つが民区内に。社殿横には滝が流れ、夏の暑さを癒す効果も◎

歴史感じる「滝神社」

「生産者と消費者のみなさまが笑顔になれるような野菜・商品づくり」をモットーに、自家生産(提携農家含む)野菜や、それらを使用した栄養や安全性にこだわった無添加ドレッシング等を販売。ドレッシングは、規格外となった野菜の加工について学ぶ講座(いわて平泉農業協同組合(JAいわて平泉)主催)への参加を機に、「野菜の栄養価を損なわず、かつ、規格外の野菜でも有効に活用できるもの」という視点で考案されたもの。岩手県が主催する「岩手うんめえ〜もん!! グランプリ2017」で6次産業化部門の優良賞を受賞すると、平成29年7月、子育て世代の雇用創出も視野に、事業所を立ち上げました。

食卓に笑顔を咲かせるお手伝い

心の雪を解かした
土のふれあい

花泉町で露地・ハウス(季節野菜のほか、西洋野菜など)合わせて年間約80品種を栽培している「Vege fruハーモニー」。代表の渡邊淳子さんの実家は代々専業農家を営んでおり、提携農家の一つです。市内で団体職員として勤務していた渡邊さんですが、体調を崩し退職。実家の農業を手伝いながら療養している。「土に触れることでエネルギーが得られ、体調が回復した」のだとか。また、自身が育てた野菜を産直等で販売し、お客様とコミュニケーションを図るうちに、「消費者は生産物だけでなく、生産者にも興味を持っている」ことに気づき「生産者としてもっと伝えるべきことがあるのでは?」と、平成27年に野菜ソムリエの資格を取得します。



- 1 代表の渡邊さん(中央)と2人のスタッフ。看板はスタッフ手作り。
- 2 市内の企業からの加工委託も受託、3人で協力して作業します。
- 3 自家生産した野菜や、各種無添加商品たち。

DATA
〒029-3205
一関市花泉町涌津字向川103
TEL 0191-82-4210
HP <https://www.vegefru-h.com/>

格外となつてしまった野菜も食卓に並ぶためにはどうすればいいか、次のステップを考えている時に、JAいわて平泉が主催する講座を勧められました」と、無添加ドレッシングの開発に至る経緯を振り返ります。

野菜の彩りを
手軽に毎日の食卓へ

同事業所が栽培している野菜は多量に渡りますが、その中でも、色鮮やかで「食べる輸血」と言われるほど栄養価の高い「ビーツ」にはこだわりがあります。ロシア料理などに多く使われる食材で、日本の食卓にはなじみが薄いですが、江戸時代に日本に入ってきたと言われており、「火焰菜(かえんさい)」という和名も。加熱すると一層鮮やかになり、この特徴を活かして出来上がったのが「美ーツドレッシング」です。

を活かしたドレッシングとして高評価。優良賞を受賞し、さらなるステップへの架け橋となったのです。話題となったドレッシングに続き、「目で楽しむカラフル野菜」として「美ーツソース」「美ーツジャム」「美ーツパウダー」「美ーツ甘酒」など、ビーツの加工品を次々と開発。インターネット通販サイトでも販売しており、女性を中心に「食卓が映える」と話題急上昇中です。

「ラベルやチラシ作成など、共に農業をしてきた仲間の協力があつてこそ」と振り返る渡邊さん。現在、自宅敷地内に加工場を設置し、子育て世代の従業員を2名雇用。「お互いの精神で、育児を中心に無理なく仕事をしてもらっています。彼女たちがいるからこそ商品ができたわけですから。子育て世代の雇用の場創出など、少しでも地域に恩返しができるば」と、子育て経験者目線と野菜への愛情を忘れず、食卓に彩りを添え続けます。



ワークショップの落とし穴①

「まちづくり」や「地域づくり」と言えば「ワークショップ」というほど、様々な場面でワークショップが開かれています。市民参加、住民参加を促すきっかけでもあり、不特定多数の意見を引き出し、合意形成をすることができるという意味では、ワークショップはとても有効的な手段です。しかし、単にワークショップをするだけでみんなの納得が得られるか?という点、そうではありません。

参加型会議 ≡ ワークショップ

「ワークショップ」という言葉を様々な分野で聞くようになりましたが、ここで言う「ワークショップ」は、「**参加型会議**」のことです。**型にはまった会議ではなく、参加者がより柔軟に声をあげられるような「話し合いの場」の1つ**がワークショップです。ワークショップ(workshop)の語源自体は「作業場」や「工房」を意味します。決められたものを大量生産する「工場」に対し、全く同じものは作れない、手作りの一点ものを生み出す「工房」のイメージから、参加型会議や体験型モノづくりの機会にも、広く使われています。

それでは、何のためにワークショップは開催するのでしょうか?

「まちづくり」や「地域づくり」に取り組むためには、そこに住む人や関わりのある人など、**多くの人の理解が必要です。一部の人の意見でモノゴトを決めて進めてしまうと、納得しない人からの不満やクレームにつながるため、「みんなで議論できる場」としてワークショップを開催します。**

当センターは、これまで多くのワークショップに関わってきましたが、ここ最近のワークショップでは、参加者がずいぶん**建設的な議論**ができるようになったと実感しています。10年前のワークショップの現場では、声の大きい人の発言で他の参加者が発言できなかつたり、「そもそもワークショップの意味が分からない」と言われたりと、なかなかの状況だったからです。ワークショップが浸透してきた背景には、一関市が「**話し合いの「協働」**」を掲げ、地道に市民参加と向き合い、ワーククショップなどを通し、市民の意見を施策に反映するように努めてきた結果でしょう。

※一関市では、平成20年から協働のまちづくりの検討をはじめ、一関市における協働のまちづくりを、「協働の主体である市民組織、企業、行政がお互いの立場を尊重し、公共的、公益的な活動を継続的な話し合いと合意により、協力して行動すること」と定義しました。

しかし、事ある毎にワークショップを開催すればいいかというと、そうはいきません。**ワークショップを開催するためには、そのワークショップをしなればいけない明確な理由が必要**だからです。ここ最近「**まちづくりだからワークショップ**」という合言葉にもなりそうな社会的イメージが定着しつつあることに落とし穴が……。

自治会や地域協働体など、**地域運営組織**においては、住民の話し合いの機会として、**ワークショップが積極的に展開されていくことは良いことだ**と思っています。地域においては、アイディアの枯渇という自然現象(いわゆるマンネリ化)が起こっているため、**結論を求めない話し合いからアイディアを沢山生むようにし、その中から必要なこと、事業になることを拾い出す必要**があります。ですが、関係者のような一部の人数だけのワークショップを開催するといつも同じような意見となつてしまい、盛り下がるということも(もちろん、普段はワークショップ形式ではない会議が多いので、盛り上がる場合もあります)。



「ワークショップの要素を取り入れた話し合い」をする地域は増えてきています(写真は日花里の郷日形)

地域づくりは、住んでいる人たちの参加がないと多様なアイディアやニーズの掘り起こしができず、成立しません。なので、**常に住民の参加を意識して企画すること**を心掛けましょう。そして、**ワークショップの目的をしっかりと創り出し、みんなに伝えること**です。

何のためにワークショップを開催し、その話し合いの結果は、どのようになるのか(していくのか)?人は、興味関心の無いことには関わりたくないものです。これまで関わったことの経験(行事や役割)から、「もう関わりたくない」という気持ちになっている人も少なくありません。だからこそ、関心を持ってもらうために、「**参加してもいいかな?」「行ったら楽しそうだな?」「少しは期待してるかな?」**そんな印象を与えられるような**場づくり**を意識して欲しいと思います。

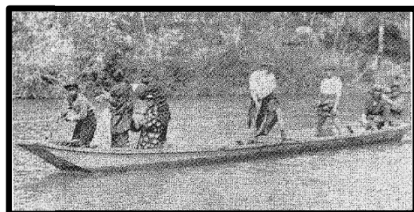
川沿い集落の暮らしと舟の使い方

陸路が整備されるまでは、川沿いに暮らす人々にとって「暮らしの必需品」だった舟。特に水害発生時の「**備え舟**」としての舟は、**逃げるための道具**かと思いきや、「**生活を続けるため**」の道具として、予想外の機能を果たしていたことが判明！「川と共に暮らしていた」人々の**生活の知恵**をご紹介します。

＜当地域における北上川に関連した主なできごと＞

～安土桃山時代	古代(少なくとも平安時代以前)から物資輸送の手段として舟が利用されていた。
江戸 元和2年	日形村(現花泉町内)で地頭・木村勘助が築堤開始。対岸の黄海村と堤防整備を巡って争いに発展することも。
明治 初期	舟運の民営化が進む(藩の「ひらた船」が払い下げられたため)。舟運の需要も増し、当地域にあった8か所の渡船場(私設含まず)の周辺は川港として発展した。
18年	盛岡に「北上川回漕会社(民間の舟運業者)」設立。翌年から狐禅寺 - 石巻間の定期運行船就航。下り2日、上り4日かけて運航(大正13年に定期運行廃止)。
24年	「日本鉄道」が「 東北本線 」を 開業 し、盛岡 - 狐禅寺間の北上川舟運の衰退がはじまる。
30年頃	今泉街道ははじめ道路の整備により、砂鉄川の水運も衰退(馬車の需要増)。
37年	狐禅寺宇舞台と舞川との間(当時の真滝村と舞川村)に「 千歳橋(千歳舟橋) 」が架けられる(昭和23年流失)。
大正 2年	狐禅寺 - 石巻、狐禅寺 - 薄衣間で発動機船の運航開始。
14年	国有鉄道「 大船渡線 」 開業 。狐禅寺 - 石巻航路も衰退はじまる(狐禅寺 - 薄衣航路は需要あり)。
昭和 5年	日形・四日市渡(日形村 - 黄海村)に「 初代北上川橋 」が架かる。※四日市渡船場廃止？
13年	川崎村薄衣に「 初代北上大橋 」が架かる。これにより、中神渡船場(日形)は廃止に。
22年	「 カスリン台風 (9月12日～16日)」による豪雨で、河川が氾濫し甚大な被害発生。
23年	「 アイオン台風 (9月16日)」により、磐井川の堤防が決壊するなど甚大な被害発生。
26年	「千歳舟橋」こと千歳橋が潜水式木造板橋になる(昭和33年にコンクリート製に嵩上げ改築)。通称「 モグリ橋 」。
38年	中里と舞川に架かる「 柵の瀬橋 」完成(木造橋はあったが、水害で流出し、渡し舟で移動していた)。
40年頃	黄海小学校(藤沢)でスクールバスの運行が開始し、通学時の渡し舟終了。 自家用車も普及し、舟の需要減少 。
47年	「一関遊水地事業」着手。※実質の着工は昭和57年頃～
53年	「千歳橋(モグリ橋)」が下流に架け替えられる(「 新千歳橋 」)。
63年	北上川、黄海川の合流地点に 堤防 が完成(昭和42年着工)。
14年	台風6号により 戦後3番目の大規模な洪水 が発生。
15年	現在の「 北上大橋 」が旧橋の約130m下流側に完成。架け換えと前後し、「 砂鉄川緊急治水対策事業 」などが進められた(平成11年～17年度)。
平成 18年	一関遊水地の小堤整備により浸水しやすくなる下流狭隘地区において、「 土地利用一体型水防災事業 」開始。一関遊水地下流から岩手・宮城県境までの約26km区間で 移転や宅地のかさ上げ を行うもの(対象家屋約115戸)。
19年	停滞した秋雨前線と台風11号から変わった温帯低気圧の影響により、地域によっては カスリン台風に次ぐ水位を観測 するも、各種治水対策(5大ダム、堤防整備)により、従来より被害が減少した。

「舟運」は陸路の整備で衰退
「渡し舟」は橋が架かることで廃止に、自家移動用の舟は車の普及で減少、「備え舟」は治水対策による移転や、家の建て替えを機に手放した人が多いみたい。



▲昭和5年以前の中里宇照井(前堀)近くの磐井川での渡し舟(阿部克郎『平成前堀風土記』より)

驚きの用途① 馬を避難させるため

農耕馬を避難させた2つの事例をまとめたものが以下です。

①舟の間に竹を渡し、その間で馬を泳がせる



②水位が上がる前に馬に乗って安全な親戚等の家に馬を預け、水位が上がった帰路には舟を借りる。家に戻ったら、自分の家の舟と借りた舟に一人ずつ乗り、舟を返しに行く。自分の家の舟に2人で乗り、帰宅。**※水が引いてしまつては舟を返しに行けないため。**



驚きの用途② 家からゴミと泥を洗い流すため

家に入った大量のゴミや泥。それを**水の引き方に合わせて洗い流す**のだとか！水が引き始めると、**家の中に舟を入れ**、水をかけて洗い流します。水の引き始めが深夜であっても、翌朝を待っているのは高い所についた泥が洗い流せなくなるため、暗闇の中、作業をします……！

驚きの用途③ トイレを借りに行くため

津波と異なり、少しずつ水位が上がっていくため、家が土台ごと流されない限りは、別の場所へ避難するのではなく、**家の2階で生活を続けた**のだとか。そこで問題となるのがトイレ。**用を足したい時は、舟で水の上がっていない家にトイレを借りに行く**のだそうです！

驚きの用途④ 畑に野菜を取りに行くため

上述の通り、2階で生活を続けるため、**食糧を調達する**必要が。水位が上がろうだと分かると、**お米を大量に炊き**、2階に上げておきます。**畑の野菜や、飲料水等の配給品は、随時舟で取りに行きます**。

驚きの用途⑤ 家をワイヤで固定するため

当時の家屋は東石に乗っているだけの状態なので、**水位によっては流されたり、転倒する**ことが多々。そのため、流されかけると、**ワイヤで周辺の樹木に固定**したり、その家に残っていた人を**救助**に行ったりしたのだとか。

驚きの用途⑥ 学校に子どもを迎えに行くため

学校から帰ることができなくなる恐れのある集落の子どもたちは、水位が上がってくると、**集落の大人が舟を出し、学校の近くの河岸まで迎えが来た**のだとか。「〇〇集落の生徒は〇〇橋に迎えが来ていますので直ちに下校してください」等の校内放送がかかったという思い出があるという人も。



▲[左] 平成14年水害時の藤沢町黄海地区の浸水状況(岩手河川国道事務所提供)
[右] 水害時、備え舟がない時にはドラム缶等対応(昭和66年水害時/鈴木清孝さん(中里宇照井)提供)

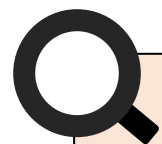
調査にご協力いただいたみなさま、ありがとうございました！

※誌面スペースの関係で割愛させていただいた参考文献やご協力いただいたみなさまの情報は、当センターホームページにてご紹介しております。

地域の「気になること」をセンタースタッフが独自に調査！

ミッション
58

暮らし調査「舟のある暮らし」 ファイルNo.14



藤沢町黄海・小日形集落を通過した際に目に留まった「軒下に吊られている木舟」。「どうやってあんな場所に!？」という単純な疑問とともに、同様の家が数軒あり、中には野ざらしで放置された木舟もあったことから「木舟が必需品だった過去がある」と推測。いつ、何の目的で、どこからどこに舟を使用していたのか、そしてその需要がなくなったのはいつ頃なのか……。 「舟のある暮らし」に想いを馳せてみました。

※記載内容はあくまでもセンター独自調査の結果です。

「舟運」と「備え舟」

坂上田村麻呂が舟運を目的とした低水工事を行うなど、**平安時代以前から物資運輸の舟運が行われていた北上川**。特に江戸時代以降は、年貢米の供出や、江戸や京都との物資輸送に舟運(各藩による「ひらた船」等)が大活躍。川港となった地域は宿場町として栄えました。年貢米がなくなった明治前半には、舟運が民営化。蒸気船や発動機船の定期航路が運行され、**陸路の整備が進む明治30年頃までは北上川の舟運が生活を支える大動脈**でした。

他方で、北上川では江戸時代の約270年間に213回、明治から昭和35年までの93年間には116回と、**水害も多数発生**※。水害常襲地帯となっていた地域も多くありました。戦国時代以前は、取水が行いやすく、洪水に対しても安全な支川扇状地に集落が形成されていたが、大名による**新田開発**に伴い、北上川本川の川沿いに**生活の場が移っていった**ことも影響しています。

そんな水害常襲地帯に暮らす家々が所有していたのが「**備え舟**」。木造の舟で、**各家の軒下などに吊るしてあり**ました。

また、木造の和舟は、陸路の交通手段が確立されるまでは、**対岸への移動手段**としても活躍。「**渡船場**」と呼ばれる渡し舟の発着所が川岸各所に開設され、**民間の渡し舟のほか、集落等が共同で渡し舟の運行**を行うなど、地域住民の足を支えていました。

陸路の整備や車の普及によって「移動手段」としての舟は必要なくなったものの、「**備え舟**」が**今も軒下に吊られている光景**を見ることができ**る当地域**。「暮らし」を支えた「**備え舟**」は、どんなタイミングで、どのような用いられていたのか、当時の様子を各地でヒアリングしてみると、予想外の用途の連続でした……！

※「国土交通省「一関防災センター」北上川学習交流館」ホームページより

北上川上流狭隘地区

一関遊水地下流から宮城県境までの約26km区間。両岸を急峻な山々に囲まれた川幅の狭い地形でありながら、一関遊水地から河口までの高低差が10mしかなく、流れが急に緩やかになってしまうために、水を流しきれず、洪水常襲地帯となっている。一関遊水地小堤の影響で浸水しやすくなつてしまったため、現在も抜本的な治水対策が進められている。



今回、中心的にヒアリングを行ったのが、現在の一関遊水地やその周辺、左記の北上川上流狭隘地区に住んでいる/過去に住んでいたという方々。

このエリアの中には、治水事業の一環で移転した家や、治水事業以前に移転していた家(水害被害を受けて転居)が多くあります。こうした地域に住んでいた家では「**備え舟**」を持っていたり、移動手段として「**舟**」を使った経験を持っているようです。



▲佐々木栄一さん(藤沢町黄海字小日形)宅の「備え舟」